

【関東大震災 100 年】 第 11 回 首都防災ウィーク

— 切迫する首都地震、生命を守ろう —

記念資料集(論文と記録写真)

令和 5 年(2023 年) 8 月 20 日(日)～9 月 10 日(日)全 22 日間連続開催
竹灯かりワークショップ: 7 月 30 日(日)～8 月 10 日(木) 10 日間開催
大船渡復興・振興支援: 10 月 14 日(土)～10 月 16 日(月)

東京都慰霊堂・都立横網町公園

日本棋院/みらくル TV (Zoom & YouTube)

大船渡市リアスホール・囲碁神社・おおふなぼーと



主催 首都防災ウィーク実行委員会

共催 公益財団法人 東京都慰霊協会
公益社団法人 全国市有物件災害共済会
特定非営利活動法人 東京いのちのポータルサイト
特定非営利活動法人 暮らしと耐震協議会
災害復興まちづくり支援機構
UIFA JAPON (国際女性建築家会議日本支部)
碁石海岸で囲碁まつり実行委員会
一般社団法人 日本視覚障害者囲碁協会
誰でも囲碁大会実行委員会
心をつなぐ囲碁連絡会 日本棋院平塚支部
協力 みらくル TV

【関東大震災100年】第11回首都防災ウィーク開催御礼

ご後援、ご協賛、ご支援に心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

■ご後援いただいた団体(順不同)

内閣府政策統括官(防災担当) 消防庁 国土交通省 東京都 東京消防庁 墨田区 墨田区教育委員会 墨田区観光協会 墨田区横網町会 全国市長会 土木学会 日本建築学会 日本建築防災協会 防災科学技術研究所 日本地震工学会 日本災害復興学会 日本技術士会 日本造園学会 日本公園緑地協会 東京都公園協会 ランドスケープコンサルタンツ協会 都市防災美化協会

■ご協賛いただいた団体(順不同)

株式会社オリエンタルコンサルツ 株式会社土屋 東京和晒株式会社
一般社団法人マンション防災協会 東京東信用金庫 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会
一般社団法人日本視覚障害者囲碁協会 応用地質株式会社 東京都造園緑化業協会 下谷神社
株式会社大徳工務店 株式会社高橋三代志工務店 関根税務会計事務所

■SPECIAL THANKS

大船渡市と市民の皆さまへ(ご一緒に取組まさせていただいた10年の日々への感謝)

日本郵便株式会社さまへ(竹灯り制作・囲碁神社音楽祭へのご支援に感謝いたします)

令和6年3月

首都防災ウィーク実行委員会 代表 中林一樹(東京都立大学名誉教授)

共催 公益財団法人 東京都慰霊協会
公益社団法人 全国市有物件災害共済会
特定非営利活動法人 東京いのちのポータルサイト
特定非営利活動法人 暮らしと耐震協議会
災害復興まちづくり支援機構
UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部)
碁石海岸で囲碁まつり実行委員会
一般社団法人 日本視覚障害者囲碁協会
誰でも囲碁大会実行委員会
心をつなぐ囲碁連絡会 日本棋院平塚支部

協力 みらくるTV(全番組YouTube配信中)

事務局: 〒124-0012 東京都葛飾区立石四丁目14-9 東京和晒(株)内(瀧澤)

taki@tenugui.co.jp Tel:090-3144-2426 FAX:03-3694-7788

〒254-0815 神奈川県平塚市桃浜町11-33-107 NPO 法人暮らしと耐震協議会内(木谷)

kitanimasa4@gmail.com Tel:080-7991-4761



<https://shutobo.net/>
首都防災ウィーク実行委員会



<http://miracletv.site/>
みらくるTV



竹灯かり制作WSを
振返っての番組



囲碁・障害・防災を語ら
う～第2回誰でも囲碁
大会に向けて



We Are WASEND～
世界一受けたい防災授業



首都を襲う巨大水害
～砂町地区水害避難支
援システム



事前復興と食料増産(漁
業振興)の切札～シティ
コン海底山脈とは何か?



国難級災害からの復興
の備え～被災地と国土
の事前復興



鎮魂と希望の世界音楽祭
開会・太鼓一人打ち



防災フォーラム2
首都の事前復興と日本
の食料増産(漁業振興)



東京都慰霊堂

1923年9月1日、関東大震災が発生し、10万5千人が亡くなりました。そのうち3万8千人が墨田区両国の旧陸軍被服廠跡（現在の横網町公園を含む広大な空き地）で焼死しました。

1930年9月1日、市民からの拠金、皇室の賜金、内務省や東京市の補助により建立された「震災記念堂」が東京市に寄付されました。これが東京都慰霊堂です。

2013年、関東大震災90年に、首都圏のNPO、研究者、障がい者、音楽家、囲碁棋士などが力を合わせ、第一回首都防災ウィークを開催しました。翌2014年に大船渡の復興支援を始めました。

「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」では、大船渡市の被災者が切り出してくださった100本の竹を原材料に、老若男女177人のボランティアが大小400本の竹灯かりを制作しました。

竹灯りは22日間の首都防災ウィークを照らしたあと、大船渡に「里帰り」して、熊野神社（囲碁神社）での「鎮魂と希望の竹灯り音楽祭」を照らしました。

本年元旦、能登半島でマグニチュード7.6の地震が発生しました。関東地方でも地震が頻発しています。首都直下地震や南海トラフ地震は今、この瞬間に起きても不思議はなく、このままでは破局的な事態が生じます。地震防災以外にも、山のような課題があります。

私たちは全国、あらゆる分野、障がいがあってもなくても、老若男女全ての皆さまと手をつなぎ、命を守るネットワークをつくりたいと念願しております。

皆さまからのご連絡をお待ち申し上げます。

「関東大震災 100 年・第 11 回首都防災ウィーク」記念資料集 目次

主な事業概要	1
開会式・点灯式	5
竹灯かり制作ボランティア一覧	6
ご来賓・主催者挨拶	
【ご来賓】 東京都知事 小池百合子様（メッセージ）	7
墨田区長 山本 亨様	8
大船渡市長 淵上 清様（メッセージ）	9
衆議院議員 務台俊介様 衆議院議員 松島みどり様 参議院議員 川田龍平様	
衆議院議員 小野泰輔様 参議院議員 塩田博昭様 参議院議員 磯崎哲史様	
参議院議員 山添 拓様 墨田区立両国中学校長 渋谷俊昌様	
【主催者】 首都防災ウィーク実行委員会代表 中林一樹	10
公益社団法人全国市有物件災害共済会常務理事 三富 吉浩	11
公益財団法人東京都慰霊協会理事長 住吉 泰男	12
特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト理事長 瀧澤 一郎	13
第一部 防災フォーラム挨拶 中林一樹	15
基調講演「関東大震災 100 年 今、私たちは何をなすべきか？」 中林一樹（当会代表）	16
「シティコン海底山脈による水産資源の回復」 鈴木達雄（シティコン海底山脈開発者）	20
「首都の事前復興と日本の食料増産（漁業振興）シティコン海底山脈の提案」	21
コーディネーターとまとめ 鍵屋一（跡見学園女子大学教授）	
「事前復興であるビル建替えがもたらすコンクリート塊の資源化」 中林一樹（当会代表）	23
「シティコン海底山脈の実現に希望の光」 鈴木達雄（シティコン海底山脈開発者）	27
「シティコンで海中プランクトン増殖による CO2 吸収と食料増産を！」	28
西川智（JICA 国際協力専門員／東北大学災害科学国際研究所特任教授）	
「防災フォーラム写真集」	29
第二部 多彩なプログラム	34
関東大震災百年特別記念展示「東京名所の地震火災を描く『震災石版画』二十五景」	35
吉川 仁（都市プランナー（防災アンド都市づくり計画室、元首都大学東京特任教授）	
UIFA JAPON 発行「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」	37
井出幸子（UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）理事）	
「慰霊堂内展示の紹介」 稲垣弘子（首都防災ウィーク実行委員、UIFA JAPON 監事）	38
「防災カフェの開催」 森田美紀（UIFA JAPON 会長）	39
「誰でも囲碁大会チラシ」 とろろさん（イラストレーター）制作	40
「誰でも囲碁大会 開会の挨拶」 中林一樹	41
「手談でつながる人々―第 2 回誰でも囲碁大会参加レポート」 品田溪氏（囲碁ライター）	42
「2003 年（20 年前）の耐震補強原点～大地震を迎え撃つ」13 日間で 12 の連続パネル討論	
藤村望洋（NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長）	43
クイズ防災穴あき俳句・関東大震災編 なぜ関東大震災の俳句は少ないか？	
藤村望洋（俳句・ARC セッション主宰）	44
「防災専門図書館紹介動画について」 全国市有物件災害共済会 防災専門図書館	45
「関東大震災から 100 年～備えよう！首都直下地震」について	
（公社）全国市有物件災害共済会 防災専門図書館	46
口笛の調べ YOKO	47

第三部 シティコン海底山脈の実現へ	48
石川県馳浩知事へくコンクリート塊を活用して海産物を増やす「創造的復興」の提案	49
「シティコン海底山脈」で初の国会質疑（2月27日衆院予算委員会分科会）小野泰輔議員	51
「中日新聞（2月23日北陸版：石川県知事への提案）／衆院予算委員会質疑の写真	55
「2011年8月の岩手県文書『東日本大震災宮古地区復興構想』	56
「全国の皆さまへ、シティコン海底山脈調査を行います」	
首都防災ウィーク実行委員会・シティコン海底山脈調査チーム	59
「シティコン海底山脈共同提案（2021年12月）」中林一樹代表など91名	63
「毎日フォーラム（2021年秋季号）」	71
「100本の竹」が拓く未来 木谷正道（首都防災ウィーク実行委員会事務局長）	73
「東海新報連載記事（2023年4月～10月 全21記事）」	75
◆ギャラリー「写真集」窓	86
みらくるTV特別番組	87
竹灯かり制作ワークショップ	91
開会式・点灯式	96
開会式後の交流会	102
第2回 誰でも囲碁大会	104
鎮魂と希望の世界音楽祭	108
防災フォーラム／口笛の演奏	113
屋外イベント	116
第8回 碁石海岸で囲碁まつり（大船渡）	119
閉会の辞 中林一樹	127
◆協賛広告 ありがとうございます！	
一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会	129
オリエンタルコンサルタンツ株式会社	131
株式会社土屋	133
東京東信用金庫	135
東京和晒株式会社	136
応用地質(株)、関根税務会計事務所、(株)高橋三代志工務店、日本視覚障害者囲碁協会	137
（一社）マンション防災協会、下谷神社、(株)大徳工務店、（一社）東京都造園緑化業協会	138
◆チラシ	135
竹灯かり制作ワークショップ	139
第11回首都防災ウィークチラシ	140
◆報道記事	
「世代を超えて竹灯りで防災を考える3週間」（9月1日 東都よみうり）	141
「関東大震災100年～22日間連続での防災考える催し」（6月28日 朝日新聞）	141
「首都防災ウィークを開催」（毎日フォーラム（2023年秋季号）	142
「事前復興を考える～首都防災ウィークを開催」2023年8月31日 毎日新聞全国版）	143
「竹灯りで心つなごう」（7月8日 東海新報）	144
「東京と大船渡つなぐ」（9月14日 東海新報）	145
「二つの震災つなぐ竹灯り」（9月14日 東海新報コラム）	146
「竹灯籠 地元に戻る」（9月14日 岩手日報）／「ヒカルの碁 寄贈」（10月4日 東海新報）	147
「復興に向けた手筋探る」（10月15日 東海新報）	148
「竹灯籠舞台照らす」（10月17日 岩手日報）／「囲碁イラスト展」（10月14日 東海新報）	149
「囲碁神社に神額奉納」（10月17日 東海新報）	150
「大船渡 鎮魂と希望の竹灯り音楽祭チラシ」	151
「編集後記」	153
【予告】「第12回首都防災ウィーク」2024年8月18日(土)～9月10日(日)	

関東大震災100年 迫りくる首都地震 今、何をなすべきか？

令和5年8月20日(日)～9月10日(日)東京都慰霊堂／日本棋院／みらくルTV

【本体事業概要】
YouTube 配信中

第11回 首都防災ウィーク 連続22日間 全35番組

- 7月30日(日) プレイベント:鎮魂と希望の竹灯かりワークショップ(東京都慰霊堂)
- 8月20日(日) 開会式・竹灯かり点灯式(都立横網町公園)
- 9月1日(木) 秋季大法要(東京都慰霊協会主催、東京都慰霊堂)
- 9月3日(日) 第二回誰でも囲碁大会(日本棋院)
- 9月5日(火) 国難級災害からの復興の備え～被災地と国土の事前復興(オンライン)
- 9月9日(土) 鎮魂と希望の世界音楽祭(東京都慰霊堂)、屋外イベント(都立横網町公園)
- 9月10日(日) 防災フォーラム／大船渡支援！サンマ1000尾炭火焼き無料提供、屋外イベント

主催 首都防災ウィーク実行委員会 代表:東京都立大学名誉教授 中林一樹

共催 (公財)東京都慰霊協会 (公社)全国市有物件災害共済会 NPO法人東京いのちのポータルサイトほか

後援 内閣府政策統括官(防災担当) 国土交通省 東京都 墨田区 墨田区教育委員会 全国市長会 日本棋院ほか

◎印:現地ライブ+みらくルTV ◆印:みらくルTV(Zoom&YouTube)のみ ★印:日本郵便年賀寄付金助成事業

◎★プレイベント:7月30日(日)～8月10日(木)09:00-16:00 鎮魂と希望の竹灯かりワークショップ(慰霊堂)

▼制作ボランティア募集(小学5年～大学生)

- ▼毎日、作業終了後に、ゲストのお話や演奏を聴き、楽しく交流。
ゲスト:中林一樹(首都防災ウィーク実行委員長)、浅野史郎(元宮城県知事)、市川啓一(危機管理アドバイザー)、大石亜矢子(シンガーソングライター(全盲))、岡田結美子(日本棋院六段)ほか
- ▼参加者には昼食と感謝状、プレゼントを差し上げます。



8月20日(日)18:00～19:10 開会式・竹灯かり点灯式(横網町公園)

主催者挨拶 中林一樹(首都防災ウィーク実行委員長(東京都立大学名誉教授))

ご来賓挨拶 東京都知事(書面)、墨田区長、大船渡市長(書面)、各党国会議員・代表(6名)、近隣学校長ほか
ボランティアへの感謝状贈呈 竹灯かり点灯 記念ライブ

◎8月20日(日)～9月10日(日)特別記念展(東京都慰霊堂)

関東大震災100年／首都防災ウィーク10年／住まいづくりの勘所(UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部))

- ◆8月21日(月)10:00-11:30 開幕SP1「東京と大船渡、心の連携」大船渡と東京を結ぶオンライン交流会
- ◆8月21日(月)19:30-20:30 開幕SP2「第11回首都防災ウィーク～今年の見どころ」第11回出演者一同
- ◆8月22日(火)19:30-20:30 「首都防災ウィーク10年の歩み」歴代出演者一同
- ◆8月23日(水)19:30-20:30 「竹灯かり制作を振り返って」WASEND(早大防災教育支援会)、横内康行((一社)福祉防災コミュニティ協会副代表理事、原香織(みらくルTV番組編成部長)ほか

◆8月24日(木)19:30-20:30

「囲碁・障害・防災を語ろう～第2回誰でも囲碁大会に向けて」コーディネーター:浅野史郎(元宮城県知事)

柿島光晴(誰でも囲碁大会実行委員長)

岡田結美子(誰でも囲碁大会副実行委員長、日本棋院六段)

竹DS(創作ソロ手話唄、聴覚障がい)

村上敬文(大田区パーキンソン友の会副会長)

柴本礼(イラストレーター、高次脳機能障がい者家族)ほか



◆8月25日(金)19:00-20:00 「こもちゃんTV 土屋の防災～要介護者の防災を考える」

古本聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺)、原香織((株)土屋防災担当)、水島めぐみ(岡山市)



こもちゃんTVは、土屋(介護会社)が提供するZoomを用いた双方向番組です。様々な分野で活躍されているゲストに活動内容をお話いただき、視聴者を交えて防災はじめ社会課題の解決に向けて考えます。ゲストの水島さんは、視覚障害(ほぼ全盲)があり、ご主人、息子さんも同様に視覚障害者です。6月14日に(株)土屋防災委員会は、水島さんご一家の風水害災害時の対応訓練を実施しました。その様子は、地元TV局2つで報道されました。その様子を番組で紹介します。なお、水島さんは(株)土屋の社員です。

◆8月26日(土)15:00-16:00 「防災俳句で遊ぼう～関東大震災編・防災穴あき俳句」

関東大震災を詠んだ俳句が意外に少ない。不思議に思っていたら、当時から一大勢力であった高浜虚子が、花鳥風月を重視して、暗いもの、汚いもの、怖いものは詠むべきではないという主張を展開し、当時から一大勢力であったホトトギス派は、地震俳句を避けるようになったとの由。しかし、当時は虚子と並び称されていた俳人としての久保田万太郎は、積極的に関東大震災の句を詠んだことが、最近の久保田万太郎俳句の見直しと復権によって明らかとなって来た。小説や戯曲の影に隠れていた久保田万太郎の俳句を中心に関東大震災の俳句を特集！関東大震災の俳句によるクイズ「穴あき俳句」で、関東大震災に迫る！！藤村望洋(俳句・ARC セッション主宰)、松本野著、荻野黄味、中澤柚果、聖成崇夫、浅野史郎(俳号・シロー)、板垣喜代子(俳号・清風)、竹 DS(俳号・豆柴)ほか

◆8月26日(土)19:30-21:00 「耐震補強と家具固定が生命を守る」 2003年の耐震補強の取組み

2003年2月、創立直後のNPO 東京いのちのポータルサイトが連続13日の耐震イベントを実施。以後、耐震補強は政府、自治体、メディアを巻き込む強力な動きになり、法改正が行われました。当時のメンバーが率直な思いを語ります。藤村望洋(電通銀座ギャラリーイベント総括責任者)

鍵屋 一(跡見学園女子大学教授) 寿乃田正人(イツ・コミュニケーションズ(株)・FM サルースチーム) 小田順子(文章の危機管理コンサルタント、(株)ことのは本舗) 木谷正道(NPO 法人暮らしと耐震協議会理事長)ほか



◆8月27日(日)~9月3日(日)「とろろさんの楽しい囲碁イラスト展」(日本棋院(市ヶ谷))

思わずにこっとする囲碁イラストがツイッターで掲載されています。制作者はとろろさん(大阪に住む聴覚障がいを持つ囲碁ファン)。9月3日(日)第二回誰でも囲碁大会に向けて、日本棋院で公開します。囲碁を知らない方も、きっと「碁石さん」のファンになります。



◆8月27日(日)15:00-21:00 「世界誰でも Zoom 囲碁大会」

▼囲碁は障がいや言語の壁を超えるユニバーサルデザインゲーム。世界 Zoom 囲碁対局は初めて。
▼運営チーム: 柿島光晴(誰でも囲碁大会実行委員長、全盲)、古本聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺)、中里利男(平塚盲学校囲碁ボランティア代表)、井上信之(日本棋院アトムネット支部事務局長)、武久喜代美(日本棋院小倉支部)、中村哲啓(高次脳機能障がいと囲碁の会)、青柳泰平(元東北大学囲碁部)、中川剛志(東京都特別支援学校教師)、木谷正道(日本棋院平塚支部長)ほか



◆8月28日(月)19:30-20:30 「We Are WASEND ~世界一受けたい防災授業~」 WASEND(早大防災教育支援会)

WASENDとは、2004年のインドネシア・スマトラ島沖地震を契機に設立された防災教育のボランティアサークルです。今回は本団体の活動のうち、えほん班と海外活動についてお伝えします。

えほん班では「世界中の子供に向けた防災絵本~気軽に学べて、しっかり伝わる~」というコンセプトのもと、絵本を制作しています。既に2冊作成しており、現在3冊目に取り組んでいます。海外活動は今年3月より再開されました。NPO 法人「国境なき技師団」のご支援のもと、フィリピンの小学校での防災授業やフィリピン大学の学生との交流会を行いました。どちらの活動も我々にとって有意義な経験であり、皆様にもぜひ共有できたらと思います。



◆8月29日(火)19:30-21:00 「首都を襲う巨大水害一砂町地区水害避難支援システムづくり」

江東5区には250万人が暮らしている。関東大震災後に工業が発達し、工業用地下水汲み上げで地盤が沈下し、マイナス地域になった。首都直下地震が迫り、温暖化で台風や豪雨による水害の危険が増している。江東5区の水害ハザードマップには「ここにはダメ」と明示されているが、詳細な避難ルートは示されていない。

その対策の第一歩として、AIを活用した江東区の一砂町地区水害避難支援システム開発が始まっている。今、闇の中に灯りが見えてきた。住民一人ひとりの自分事としての参加が必要となってきた。

▼中瀬勝義「大水害を考える—江東ゼロメートル地帯を歩く」江東5区マイナス地域防災を考える会、海洋観光研究所
▼有川太郎「砂町地区水害避難支援システム」中央大学海岸・港湾研究室教授、(国)港湾空港技術研究所客員研究員
▼中林一樹「多様な水害とみんなの水害時避難対策」東京都立大学名誉教授、明治大学復興・危機管理研究所客員研究員



◆8月30日(水)19:30-21:00 「シティコン海底山脈~事前復興と食料増産(漁業振興)の切札?」

都市の資源(コンクリート)を原材料に、不毛の海底に小山をつくります。表層に養分が上り、太陽光と二酸化炭素で光合成が行われ、魚が湧きます。既存のコンクリート建造物を有用資源として活用し、震災時には迅速な復旧に役立ちます。本構想提唱者の鈴木達雄(シティコン海底山脈研究会代表)と高橋正征((公社)日本水産資源保護協会会長、東京大学名誉教授)が縦横無尽に語ります。



◆8月31日(木)19:30-21:00 「視覚障害者への囲碁入門講座~盲学校生徒の命を守る防災への取組」

▼柿島光晴(日本視覚障害者囲碁協会代表理事) ▼片平考美(日本視覚障害者団体連合・青年協議会会長、静岡県立静岡視覚支援学校・小学部教諭)



◎9月1日(金)10:00-11:00 「秋季大法要」(東京都慰霊協会主催、東京都慰霊堂)

◆9月1日(金)19:00-20:00 「こもちゃんTV 災害時の補助犬の役割」

古本聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺)、原香織((株)土屋防災担当)、橋爪智子(社会貢献教育ファシ

リテータ・NPO 法人日本補助犬情報センター 専務理事兼事務局長)

こもちゃん TV は、土屋(介護会社)が提供する Zoom を用いた双方向番組です。毎回、様々な分野で活躍されているゲストをお招きし、活動内容をお話いただき、視聴者を交えながら社会課題の解決に向けて考えて行こう、というのがその趣旨です。障害者を取り巻く問題、食糧問題、防災・減災の課題などに鋭く切り込んでいきます。



ゲストは、NPO 法人日本補助犬情報センター専務理事兼事務局長の橋爪智子さんです。災害時における補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割や訓練の方法について伺います。普段は、知ることの出ない補助犬の様子をお伝えします。

◆9月2日(土)09:00-10:30 「高次脳機能障がいと囲碁療法の可能性」

「高次脳機能障がい」は脳卒中や交通事故が原因で、記憶障害、失語症、感情が制御できないなどが起き、社会生活が困難になります。「新しいゲームは覚えられない」とされますが、大田区ではたくさんの方々が囲碁ボランティアと一緒に碁を楽しみ、上達しています。



▼栗城優子(高次脳機能障がいと囲碁の会世話役)、柴本礼(イラストレーター、家族) & コウジ(当事者)、村上敬丈(大田区パーキンソン友の会副会長)、中里利男(平塚盲学校囲碁ボランティア代表)、木谷正道(高次脳機能障がいと囲碁の会代表)ほか。

◆9月2日(土)15:00-17:00 「自然災害に備えて住まいづくりの勘所」UIFA JAPON (国際女性建築家会議日本支部)

多様な自然災害に見舞われるこの日本で、命を守り、被災を乗り越え、復興に向けて歩むために、今、どのように備えたら良いのか、住まいというシェルターはどうあれば良いのか、私たち UIFAJAPON(国際女性建築家会議日本支部)という、建築に関わる女性達で、足掛け3年かけて小冊子にまとめました。

「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」と言う名称で、今年3月に発行しました。その内容をイラストで分かり易く、編集メンバーがお伝えします。備えのヒントになれば幸いです。

森田美紀(UIFAJAPON 会長) 宮本伸子(理事) 伊藤京子(副会長) 井出幸子(理事) 上田壽子(理事) 薄井温(理事) 加部千賀子(理事) 谷村留津(事業委員) 板東みさこ(会員) 松川淳子(相談役) 稲垣弘子(監事)

◎9月3日(日)10:00-16:00 「第2回誰でも囲碁大会(日本棋院)」参加者募集中

▼昨年の第一回には老若男女80人が参加し、20人が様々な障がいや難病(視覚障がい、聴覚障がい、高次脳機能障がい、脳性麻痺、ダウン症、自閉症、パーキンソン病、ジストニア)を持つ方々でした。今年は180人!

▼実行委員長: 柿島光晴((一社)日本視覚障害者囲碁協会代表理事)、副実行委員長: 岡田結美子(日本棋院六段)

▼応援棋士: 岡田伸一郎(日本棋院九段)、水間俊文(同八段)、信田成仁(同七段)、白石京子(関西棋院四段)。

◆9月4日(月)19:30-21:00 「首都地震~マンション住民が大ピンチ??」

建物は無傷でも、停電するとマンションは断水し、トイレが使えない!

昨年の防災フォーラムは大反響でした。マンション住民は必ずご覧ください。

鍵屋一(跡見学園女子大学教授、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事)

山本耕平((株)ダイナックス都市環境研究所代表取締役・(一社)日本トイレ協会副代表、災害・仮設トイレ研究会代表幹事)



◆9月5日(火)13:30-16:30 「シンポジウム: 国難級災害からの復興の備え~被災地と国土の事前復興~」

このままでは、破局的な事態が生じる。何をなすべきか、何ができるのか。

中林一樹(首都防災ウィーク実行委員長、東京都立大学名誉教授)

河田恵昭(関西大学社会安全研究センター長・特任教授、京都大学名誉教授)

福和伸夫(名古屋大学名誉教授、あいち・なごや強靱化共創センター長)

加藤孝明(東京大学教授) ほか



◆9月6日(水)15:00-17:00 「誰一人取り残さない防災への取り組み」災害復興まちづくり支援機構

災害復興まちづくり支援機構は、各種分野の専門職(弁護士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、中小企業診断士、税理士、公認会計士、弁理士、技術士、建築士、不動産鑑定士、土地家屋調査士、社会福祉士ほか)の構成団体が加盟している土業連携団体です。

災害発生時、高齢者・障がい者・外国人といった要支援者に対しては、行政や民間の福祉団体による積極的支援がこれまで進められてきました。しかし、それで果たして要支援者の生命や生活は守られるのでしょうか? 被災者支援に取り組んできた各界の専門家により、災害時に「誰一人取り残さない」ためには一体何が必要なのか、目からうろこが落ちる議論をお届けします。

◆9月7日(木)19:30-21:00 「視覚障害者への囲碁入門講座~盲学校生徒の命を守る防災への取り組み(2)」

▼柿島光晴(日本視覚障害者囲碁協会代表理事)、

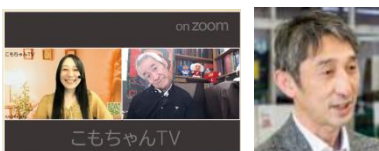
▼片平考美(日本視覚障害者団体連合・青年協議会会長、静岡県立静岡視覚特別支援学校・小学部教諭)



◆9月8日(金)19:00-20:00 「こもちゃんTV~ 災害時用の非常食もフードリカバリーしよう」

古本聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺)、原香織((株)土屋防災担当)、ゲスト: 植田全樹

こもちゃん TV は、土屋(介護会社)が提供する Zoom を用いた双方向番組です。毎回、様々な分野で活躍されているゲストをお招きし、活動内容をお話いただき、



視聴者を交えながら社会課題の解決に向けて考えて行こう、というのがその趣旨です。障害者を取り巻く問題、食糧問題、防災・減災の課題などに鋭く切り込んでいきます。

この回のゲストは、株式会社アスク フードリカバリー研究室長、(一社)日本フードリカバリー協会代表理事の植田全樹さんです。消費期限の近くなった災害備蓄品の食料を無駄なく必要な人に届けるシステム作りについてお伺いしていきます。

◎9月9日(土)10:00-17:00【横網町公園】▼防災何でも相談・防災クイズ(災害復興まちづくり支援機構)

各種分野の専門家(弁護士・司法書士・行政書士・不動産鑑定士・中小企業診断士・社会保険労務士・技術士ほか)による無料相談を開催します。ご家族向けには防災クイズや各種防災グッズの使用体験・実験コーナーもご用意しています。参加者には防災お役立ちグッズのプレゼントがあります。ぜひ奮ってご参加下さい。

▼災害備蓄品もフードリカバリー(株式会社アスク フードリカバリー研究室長・植田全樹)

消費期限間近の災害備蓄食品を回収し、必要な人に届ける! 繋がりでフードロスを減らそう!

▼緊急タグアプリ(株式会社カムカム代表・小林由美)

災害時に声を出せない被災者に代わって、助けを求め病状と連絡先を伝えるアプリです。

▼きいちゃんの災害避難ゲーム(あいち防災リーダー会・岡田公夫)

大地震発生! 自宅から避難場所まで時間内に逃げきろう! 家の中で、避難経路で様々な課題が立ちふさがる。事前防災の大切さを楽しく学ぶボードゲーム。あなたはクリア出来るかな。



◎13:30-18:00「鎮魂と希望の世界音楽祭」(東京都慰霊堂)▽印はオンライン出演

▽BSKビッグバンド、スッチンピアノ学院(韓国)▽台北市立啓明学校(盲学校、台湾)▽LOVE SONGERS(気仙沼) 墨田区立両国中学校プラスバンド部 新宿フルートアンサンブル(寿乃田正人ほか) 筑波大学視覚特別支援学校音楽科 UNO工房ハンドベル(知的障がい) 片岡亮太(和太鼓、全盲) 山村優子(ホルン) 白井崇陽(ヴァイオリン、全盲) 大石亜矢子(シンガーソングライター、全盲) MIKUMI(ダンス、ダウン症)&原香織(ヴォーカル) 心の唄バンド(木谷正道(ヴォーカル) 竹DS(創作ソロ手話唄(聴覚障がい) 三木靖子(ピアノ) 丸山泰明(ボイスパーカッション)、佐野和子(波のパーカッション))

◎9月10日(日)10:00-17:00【横網町公園】大船渡支援! サンマ1000尾炭火焼き無料提供

10時から何回かに分けて整理券を発行(防災フォーラム参加者にも整理券をさし上げます)。



▼防災何でも相談・防災クイズ(災害復興まちづくり支援機構)(9日を参照)

▼きいちゃんの災害避難ゲーム(あいち防災リーダー会・岡田公夫)(9日を参照)

▼防災カフェ UIFA JAPON (国際女性建築家会議日本支部)

4年ぶりに開かれる「防災カフェ」です。慰霊堂前のテントで、冷たいお抹茶や温かいお抹茶を点て、美味しい和菓子と一緒にお願いします。今年は、私たち UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部)が作成した、「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」という小冊子をプレゼントします。



宮本伸子(UIFA JAPON 理事) 井出幸子(同) 岩井紘子(同) 稲垣弘子(監事) 他

▼おいしい! 大船渡物産展(岩手三陸アンテナショップ三陸SUN)、飲食物出店多数

東高円寺駅から徒歩約2分の場所にある『三陸 SUN』。大船渡出身者、大船渡に関わりのある方が気軽に交流できる場として、2017年3月オープンしました。首都防災ウィークには毎回出店。ふるさとの味が恋しくなったら、ごさあづまれ~!



◎13:00-18:00 防災フォーラム(東京都慰霊堂) 関東大震災100年~私たちは今、何をなすべきか?

13:00-13:30 開会:▼口笛の調べ YOKO(口笛世界大会2018優勝者)

▼主催者挨拶:中林一樹(首都防災ウィーク実行委員会代表)ノ住吉泰男((公財)東京都慰霊協会理事長)ノ三富吉浩((公社)全国市有物件災害共済会常務理事)ノ瀧澤一郎(NPO 法人 東京いのちのポータルサイト理事長)

13:30-14:10 ▼基調講演 中林一樹(首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授)

14:10-15:40 ▼防災フォーラム第一部「つながりあう防災~障がいや年齢を超えて」

○コーディネーター:浅野史郎(元宮城県知事) 山中美枝子(大田区パーキンソン友の会副支部長、当事者、84歳)、大石亜矢子(シンガーソングライター、全盲)、白井崇陽(ヴァイオリニスト、全盲)、竹DS(創作ソロ手話唄、聴覚障がい)、柴本礼(イラストレーター、高次脳機能障がい者家族)、MIKUMI(ダンス、ダウン症)、古本聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺)、岡本博(第一回首都防災ウィーク現地事務局長、ジストニア当事者)

15:40-18:00 防災フォーラム第二部:首都の事前復興と日本の食料増産(漁業振興)~シティコン海底山脈の提案

○講演:中林一樹(東京都立大学名誉教授)、高橋正征((公社)日本水産資源保護協会会長、東京大学名誉教授)
○コーディネーター:鍵屋一(跡見学園女子大学教授) ○パネリスト:鈴木達夫(シティコン海底山脈提唱者)、西川智(JICA 国際協力専門員、東北大学災害科学国際研究所特任教授、共同提案者)、国会議員、研究者など

◎18:00 閉会式・竹灯かり消灯式⇒竹灯かりは翌11日に大船渡市に里帰りし、1月間、地元音楽祭会場を照らします。

【連絡先】 kitanimasa4@gmail.com 080-7991-4761(木谷) 公式サイト <https://www.shutobo.net>



開会式・竹灯かり点灯式

- 1 日時：令和5年8月20日（日）18:00-20:00
同時併催：特別記念展「東京名所の地震火災-『震災石版画』二十五景」
- 2 会場：東京都慰霊堂（東京都墨田区横網2丁目3-2）
- 3 次第
 - ▼開式 岡野谷 純（NPO法人日本ファーストエイドソサエティ理事長）
 - ▼黙祷・震災映像
 - ▼主催者挨拶：中林一樹（首都防災ウィーク実行委員会代表・東京都立大学名誉教授）
 - ▼共催者代表紹介
公益財団法人東京都慰霊協会理事長 住吉泰男
公益社団法人全国市有物件災害共済会常務理事 三富吉浩
NPO法人東京いのちのポータルサイト理事長 瀧澤一郎
 - ▼ご来賓代表ご挨拶
東京都知事 小池百合子様（メッセージ代読）
墨田区長 山本 亨様
大船渡市長 渕上 清様（メッセージ代読）
自由民主党・衆議院議員 務台俊介様
自由民主党・衆議院議員 松島みどり様
立憲民主党・参議院議員 川田龍平様
日本維新の会・衆議院議員 小野泰輔様
公明党・参議院議員 塩田博昭様
国民民主党・参議院議員 磯崎哲史様
日本共産党・参議院議員 山添 拓様
墨田区立両国中学校長 渋谷俊昌様
 - ▼ご来賓紹介
東京都議会議員 川松真一朗様 加藤雅之様
墨田区議会議員 福田はるみ様 はねだ福代様 おまた雄一様 加藤ひろき様 小林しょう様
しみず良平様 高橋のりこ様 たきざわ正宣様 長南貴則様 とも宣子様 中村あきひろ様
安田学園中学高等学校長 稲村隆雄様 日本大学第一中学高等学校長 熊谷一弘様
墨田区横網町会長 林 孝明様 墨田区観光協会理事長 森山育子様
東京都造園緑化業協会理事長 卯之原 昇様 日本技術士会防災支援委員長 田村浩敏様
東京東信用金庫理事長 中田清史様 福祉防災コミュニティ協会会長 浅野史郎様
日本棋院八段 水間俊文様 首都圏さんりく大船渡人会会長 保原幸夫様
桜東京パイロットクラブ会長 米山勝子様
 - ▼感謝状贈呈
贈呈者：中林一樹（首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授）
被贈呈者（竹灯り制作ボランティア176人を代表し、次の方々に贈呈）
 - ・学生リーダー代表：早稲田大学創造理工学部3年（WASEND） 宮崎佑衣様
 - ・小中高生ボランティア代表
墨田区立両国中学3年 酒井優海様、同2年 茂木貴優子様
日本大学第一中学校3年 松山雄亮様
安田学園高等学校3年 根本舜也様（代理受領 同校長稲村隆雄様）
 - ・成人ボランティア代表
桜東京パイロットクラブ 山中美枝子様（パーキンソン病、84歳）
 - ・竹伐採チーム代表
大船渡市碁石地区復興まちづくり協議会会長 大和田東江様（代理受領：新沼岩保様）
 - ▼鎮魂と希望の竹灯り点灯式
 - ▽ぼんぼり型竹灯り412個にボランティアが点灯
 - ▽主催者・ご来賓代表によるテープカット
 - ▽大型竹灯り157本に点灯（竹灯り責任者：横内康行、副責任者：原香織、被贈呈者代表5名）
 - ▼記念コンサート：Amazing Grace、故郷（全員で合唱）
大石亜矢子（シンガーソングライター、全盲）、白井崇陽（ヴァイオリニスト、全盲）、竹DS（創作ソロ手話唄、聴覚障がい）、丸山泰明（ボイスパーカッション）、佐野和子（波のパーカッション、手話通訳）
 - ▼20:00 閉式

竹灯り制作ボランティア一覧 177名 延べ参加者 392名

【本事業は、日本郵便年賀寄付金配分事業の助成を受け、
NPO法人東京いのちのポータルサイトが実施しました】

【ア行】青木芙結、青野紗綾香、青柳泰平、浅野史郎、安達司郎、阿部良女、安東篤史、池上佳穂、池野一成、石川肇久、石川元子、石川樺音、石川ゆい、石川美代子、石塚数人、磯谷徳仁、市川啓一、市川理海、井上信之、伊藤 元、伊藤 滂、板垣剛、板垣喜代子、稲垣弘子、岩淵 恭子、枝 知愛子、枝 紘義、上杉俊和、上田和俊、上田和司、江川 聡、王 肖剛、王雲鈴、大石亜矢子、大村有加、大和田東江、岡崎景子、岡崎春子、岡田結美子、岡本祥子、岡野海斗、岡野谷 純、奥須賀悠矢、奥村響祐、長船至、小野智輝、小野尚輝（47名）

【カ行】柿島光晴、駕谷華子、駕谷祥郎、駕谷優太郎、駕谷凜、加藤知美、加藤真隆、加藤朱莉、金森泰都、金子和宏、金子泰己、河村ひまり、岸 佑、木村佳織、桐原美恵子、木谷正道、黒川榎織、小長井凜、小長井花音、小長井、古本聡、古本由美子、小林球希、小林美佳、小林光希、小林結希、小林由美、今野節夫（28名）

【サ行】酒井優海、阪本紬貴、阪本貴恵、阪本杏貴、櫻井陸、佐藤光平、佐藤魁、佐藤 楓、佐藤 樹、佐藤千晶、佐野和子、椎野登貴子、志田隆人、志村一花、志村栄一、杉本達真、須藤秀子、鈴木野々花、白井崇陽、杉浦登、鈴木栄司、鈴木達雄、聖成崇夫（23名）

【タ行】高橋雄一、瀧澤一郎、瀧澤美佳、竹DS、田見愛華、寺本麗央、高須俊輔、田島千慧、田中琴巳、田中優璃亜、塚本笑里、津田素子、高島心凧、百目鬼千鶴（14名）

【ナ行】中川剛志、中川瑠之宥、中里利男、中村哲啓、中村直人、永田由生、南部洋子、南部茂、新沼岩保、二宮正男、根本舜也、野島 彩、信田成仁、信田環生（14名）

【ハ行】原 香織、原 咲太朗、原 未来美、原 優梨香、原 隆太郎、藤田千晴、藤村望洋、古舘貴之、樋渡 悠、堀口怜那、本多修造（11名）

【マ行】松川淳子、松田佐知子、松野天音、松本愛瑛、松山正弘、松山涼亮、松山佳子、松山雄亮、丸山泰明、三浦しおん、三木靖子、三竹眞知子、明珍美紀、御村瑞輝、宮崎佑衣、村栄一、村上征一、村上敬丈、武藤佑果、室井すず、室矢ゆり乃、女ヶ沢 花音、茂木貴優子、森井里美、森井優希、森本陽子（26名）

【ヤ行】安田欣只、山下朋子、山本堅心、山中真喜子、山中武一、山中美枝子、山本正典、山谷瑠奈、横内康行、横尾智雄、横尾真由美、吉田節子、吉川優奈、米山勝子（14名）

首都防災ウィーク実行委員会
代表 中林 一樹 様

拝啓

時下益々ご清祥のこととお慶びいたします。

「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」並びに「竹灯り点灯式」の開催、誠におめでとうございます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から12年、そして、関東大震災からは100年の節目となりました。

今日、震災で被災された岩手県大船渡市の皆様が切り出した「100本の竹」に灯りがともされます。この灯りが、私たちの未来を明るく照らしてくださることを願っています。

関東大震災に臨み、未来を見据えて行動した後藤新平や渋沢栄一。そうした先人たちの努力の結晶である東京の安全・安心を更にレベルアップし、100年先も持続可能な都市を実現していきたいと思えます。

災害への備えを強固なものにするには、公助はもとより、皆様一人ひとりの自助・共助の力を結集することが大切です。住民、地域、事業者の皆様、行政が一丸となって、安全・安心な、豊かさに溢れる東京を創っていきましょう。

首都防災ウィーク実行委員会の御発展と、皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和5年8月吉日

東京都知事

小池百合子 

第11回 首都防災ウィーク開会に寄せて

墨田区長 山本 卓



今回の「首都防災ウィーク」では、「関東大震災100年 迫りくる首都地震 今、何をすべきか?」と題し、基調講演をはじめとする多様なプログラムが企画されており、開催にあたり、御尽力された「首都防災ウィーク実行委員会」ならびに東京都慰霊協会の皆様、そして御協力いただいている各団体・関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

関東大震災で壊滅的な被害を受けた墨田区では、大正・昭和・平成・令和と、4つの時代をひゃく経た、この100年の節目に、「つながりで守る。すみだ防災100」をテーマに掲げ、地域福祉活動や、防災関連事業の参加者など、様々な視点で日ごろから防災対策に取り組まれている人たちの「想い」を、メッセージとして集める活動を展開しています。「首都直下地震」がいつ発生してもおかしくない状況にあるといわれる中、一人ひとりの、安全・安心への想いを共有し、発信していくことで、防災意識の向上を図るとともに、本区の地域力をより一層高めていきたいと考えています。

また、防災週間にあわせて、「すみだ防災フェア2023」を実施します。「防災シンポジウム」、や「防災展」、「起震車の運行」など、様々な催しを通して、建物の耐震化や家具の転倒防止など、日頃の備えについて、改めて確認する機会としていただけたら幸いです。

近年は、地球温暖化に伴う気候変動等により突発的な豪雨や台風など風水害の被害が増えていることから、本区においても、大規模な自然災害に対し、「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた防災まちづくりを着実に推進するための「墨田区国土強靱化計画」を策定しました。また、災害復興支援組織の設立など、復興対策にも取り組んでいます。

大きな災害になるほど、地域における人と人とのつながりと助け合い、いわゆる「共助」が、重要となります。これからも、区民の皆様との連携・協力により、安全・安心なまちづくりの実現に向けた取組を加速していきますので、皆様のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、ご来場の皆様の交流を通して、命を守る活動の輪が広がることを祈念いたしますとともに、本イベントの開催に御尽力いただきましたすべての皆様に感謝を申し上げ、私の御挨拶といたします。

第11回首都防災ウィークの開催にあたって（メッセージ）

大船渡市長 渕上 清

1923年9月の関東大震災から100年の節目に、第11回首都防災ウィークが開催されますことに心から敬意を表します。出席が叶わず誠に残念ではありますが、大船渡市基石地区の被災者が切り出した竹100本で制作いただいた竹灯かりに鎮魂と希望の思いを託します。

2011年3月の東日本大震災によって、かつてない甚大な被害を受け、絶望に打ちひしがれていた私たちは、全国各地からの職員派遣や、首都防災ウィーク実行委員会様をはじめとする国内外からの力強く、心温まるご支援により、生きる希望と、再び立ち上がって復旧・復興へと歩み出す勇気を持つことができました。

この場をお借りして改めて深く感謝し、御礼申し上げます。

近年、全国各地で、台風等による自然災害が多発、激甚化しており、また、首都直下型地震の切迫や、岩手県においては、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴う、最大クラスの津波浸水想定が公表されるなど、防災・減災に対するより一層の意識醸成が重要になっております。

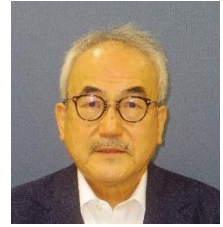
当市といたしましては、震災復興で得られた貴重な経験、教訓を活かし、二度と犠牲者を出さないよう、次世代への確実な震災伝承や防災学習の推進を図るべく、各般の施策に取り組んでいるところであります。

こうした中、「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」が、「誰でも囲碁大会」や「防災フォーラム」、連携のシンボル「大船渡支援！サンマ1000尾プロジェクト」など数多くのイベントを通じて、災害から自分と大切な人を守るため、「備え、繋がる」意識を醸成する貴重な取組となることを確信しております。

大船渡、東京、そして全国へ、命を守るネットワークが広がることを期待するとともに、本イベントの開催にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げ、メッセージといたします。

開会の辞： 関東大震災 100 年に向けて

首都防災ウィーク実行委員会代表／東京都立大学名誉教授
中林一樹



1923年9月1日11時58分に、南関東の大地が揺れ始めました。揺れが収まるとともに東京、横浜で発生した火災は断続的に拡がり、ここ被服廠跡地では、火災旋風も発生するに至りました。東京、神奈川、千葉を中心に、10万5千人もの人の命が奪われる、日本の災害史上、最大の災害となったのです。それから100年、大震災を乗り越え、戦禍も乗り越え、100年前とは全く違う、世界最大の都市「東京」になっています。しかし、その東京を、首都圏を、30年以内に70%の確率で、M7級の首都直下地震が襲うと言われ続けてきました。

大きな地震がおこるは東京、と言われていたのに阪神・淡路大震災が発生し、次こそは東京と言われて、東日本大震災が発生しました。

その東日本大震災の復興が本格的に動き始めた2013年に、「そうだ、10年後は関東大震災の100年目だ。その前に起こるM7の直下地震でも、とても大きな被害が想定されている。その被害を減らすも、増やすも、われわれ市民・都民一人一人の取り組みにかかっている。われわれが自らやらねば、被害を軽減することはできないのだから、の市民による事前防災の取り組みを、何とか加速しなければいけない。何かやろう」と始まったのが、この首都防災ウィークです。

最初は、阪神・淡路大震災の教訓であった、自宅の耐震化と室内での家具転倒防止の推進でした。そこから、多くの人と出会い、一人一人の我が家の防災は、本当に一人一人自分で取り組まないといけないんだ、と思う一方、とても一人ではやりきれない。自助とともに共助としての様々な支え合いが重要なんだ、と思うようになっていきました。同時に、関東大震災100年目の「節目」とは、若者の多かった人口増加と成長の時代から、人口減少と要配慮者の多い成熟の時代へ変わっていく「節目」でもあるということに、気が付きました。

この10年間、さまざまに取り組んできた首都防災ウィークのなかで、最も重要なキーワードとなって来たのが、「人と人がつながる防災」でした。2023年、今年に関東大震災100年の第11回首都防災ウィークのテーマは、全ての都民・市民が繋がって、親も子も、友人も、大事な人も、高齢者も、障害のある方も、外国人も、全ての人々がつながり、「誰一人、取り残さない防災」を、首都直下地震を迎え撃つための備えとする、「つながりあう防災」にしました。そのシンボルが、竹灯りです。

東日本大震災で被災した「大船渡」と100年前の関東大震災で被災した「東京」とをつなぎ、高齢者と若者をつなぎ、過去と今を、そして、今と未来をつなぎ、空間も時間も世代も越えてつなぐ「竹灯り」とともに、いろいろな方々とつながって、支え合いながら首都直下地震を迎え撃ち、誰一人取り残さないで震災を乗り越える“民の、民による、民のための「つながる防災」”の3週間を、ここに開催します。

ここ慰霊堂を、私たちの“心のつながり拠点”としながら、また“みらくるTV”のzoomやYouTubeで全国にも、世界にも発信しながら、「民の、民による、民のためのつながる防災」のさまざまな取り組みを、発信していきたいと思います。この3週間のさまざまな取り組みは、全てオープンです。多くの皆さまの参加を得て120本を越える竹灯りと、さまざまな取り組みが準備できました。さらに多くの皆さまに、さまざまなイベントにご参加いただきますよう、お願いをさせていただきます。首都防災ウィーク実行委員会を代表して、第11回首都防災ウィークの開会の挨拶とさせていただきます。

第 11 回首都防災ウィーク開催にあたって

公益社団法人 全国市有物件災害共済会

常務理事 三富吉浩



私どもは、地方自治の発展と住民福祉の向上を目指し、災害によって市等有する公有財産に生じた損害に関する相互救済事業を実施するため、昭和 24 年に地方自治法第 263 条の 2 に基づき、全国の市が共同で設立した公益的法人でございます。

設立以来、都市における防災、減災に関する様々な事業を実施してまいりましたが、この「首都防災ウィーク」におきましては、微力ながら平成 25 年の第 1 回から参画させていただいております。

さて、このたびの防災フォーラム 1 では、災害対策基本法が令和 3 年に改正され、高齢者や障がい者等の避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画の作成が市町村に努力義務化されているところですが、誰一人取り残さない防災のため、「つながりあう防災～障がいや年齢を超えて～」をテーマに、誰もが支え合う社会共生社会づくりを目指した内容となっております。

また、防災フォーラム 2 では、「首都の事前復興と日本の食料増産」と第 9 回防災フォーラムで提案したシティコン人工海底山脈のテーマをさらに発展、深化した内容となっております。

シティコン(老朽ビルの解体などで都市から生じる廃棄物としてのコンクリート殻)を資源化して人工海底山脈をつくる取組は、膨大なエネルギーを使い CO2 を大量に発生させる廃棄物の処理工程を極力減らし、平時にも地球環境にやさしく、被災時にも被災地の環境に貢献できる創造的復興に役立つと同時に、現在課題となっている日本の食料増産につながるものであります。

いずれのフォーラムにおきましても、専門家の方々に御講演いただくもので、関東大震災 100 年目に当たる本年、迫り来る大震災に備え、私たちは今、何をなすべきかを皆様とともに考えてまいりたいと存じます。

関東大震災 100 年を迎えて

公益財団法人東京都慰霊協会

理事長 住吉泰男



2023（令和5）年9月1日、東京は、あの大災害、関東大震災から100年を迎えました。今、実際に震災を経験した人は殆んどおりません。しかし当時の状況は、写真や体験文、そして何より明治・大正の時代を描いたテレビドラマ、特にNHK朝ドラで物語の節目に必ずと言ってよいほど取り上げられています。そして、その後の復興の歴史を観ると、東京の現代史は戦後ではなく、関東大震災に始まったと言っても過言ではないと感じます。

東京都慰霊協会は、戦前東京府・市が共同主催していた関東大震災の慰霊祭を引継ぎ、戦後戦災犠牲者も併せて、昭和22年から「関東大震災並びに戦災遭難者慰霊大法要」として、毎年9月1日に慰霊祭を開催してきました。

100年の時を経た今、慰霊祭は、これまで支えてきた遺族をはじめ仏教会や地元ボランティアに頼るだけではなく、都民全体で守り継承していくという態勢がより重要になってきています。その夢と力と可能性を与えてくれたのが10年前から活動を開始した「首都防災ウィーク」でした。実行委員会のエネルギーな活動は、小さな灯を大きな炎に変えつつあります。これまで、そしてこれからのみなさまのご奮闘に感謝と期待を込めて、震災100年の挨拶といたします。

第 1 1 回首都防災ウィークを迎えて

特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト

理事長 瀧澤一郎



今から 100 年前の 9 月 1 日に関東大地震が起き、東京都慰霊堂のある横網町公園あたり一帯の陸軍被服廠跡地に避難された約 40,000 人のうちその 95%の約 38,000 名がお亡くなりになりました。

その模様を先日 NHK で放送された、「カラーで見る関東大震災」という番組でも見る事が出来ましたが、「何かあったら被服廠跡地に行け」と事前にも当日も言われ、4 万人の方が避難されました。避難された当初は、避難所に来て安心された方もいたことでしょうし、まさか数時間後に火災扇風で自分が死んでしまうなどとは誰も想像できなかったことでしょう。

さて、これと同じことが、いつ来てもおかしくない次の首都圏大地震にも言えると思います。地震対策として私たちがすべきと言われていたことは実に沢山あります。東京都が作って全都民に配布した約 300 ページの「東京防災」という本がありますが、これら全て理解したとしても命が助かるわけではありません。

地震対策には、優先順位があります。避難持ち出し袋がなくても、すぐに死ぬわけはありませんし、死んでしまったら、避難持ち出し袋も何の役にも立ちません。帰宅困難者問題が東日本大震災でクローズアップされ、その対策も色々なされましたが、帰宅困難で亡くなった方はおりません。

では、どうしたら大地震から命を守れるか？昨今声が大きくなって来た「事前防災」「事前復興」ですが、災害が起きる前にどれだけ備えることができるかということが重要で、起きてからはどうしようもないことがたくさんあります。例えばそれは、大地震が来ても、壊れない建物にする、家具が倒れて下敷きにならないようにする。

火災が起きても、燃え広がらない街にする。それは当たり前かも知れませんが、お金も時間も掛かるし、一人では出来なくて地域みんなで協力しなければ出来ないことです。でも諦めずに大地震を迎え撃つ。その積み重ねが、私やあなたの命を守ることだと思えます。

是非、次の大地震で私たちが、被服廠に避難した人のようにならないように心掛けていきたいと思えます。

この防災フォーラムを通じて、是非「自分の頭で」どうやったら生き残れるか、をしっかりと考えていただければ幸いです。